

第 1 学年 2 組 算数科 学習指導案

1 単 元 大きいかず (本時 10 / 13)

2 目 標

- ① 100までの数や100を少しこえる数について、数字でかいたり数直線上で表したりするとともに、数の大小比較ができる。 (知識・技能)
- ② 100までの数を「10がいくつと 1がいくつ」、100を少しこえる数を「100といくつ」という見方でとらえることができる。 (思考力・判断力・表現力)
- ③ 100までの数を10ずつまとめて数えるよさに気づき、身のまわりから進んで100までの数字を見つけようようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 構 想

本学級は男子17人、女子15人の32人で構成されている。本学級には「今日は算数が2時間あるよ。やった。」と言うほど毎日の算数の授業を楽しみにしている児童が多く、挙手して発言できる児童も多い。難しい問題ほどやる気になっている。しかし、2学期に学習した「10よりおおいかず」の単元の数のまとまりに着目して数え方を考える授業では、「2とび」や「5とび」の数え方に慣れていない児童が多かった。

本単元では、1円玉や5円玉、10円玉を使って、硬貨の種類や数に応じた数の数え方や、数の合成をできるようにするとともに、いろいろなお金の出し方や出しやすさを考えることができるようにしたい。お金は、児童が日常生活の中でも使用する機会が多く、児童の興味関心が高い。そのため、児童はより主体的に授業に取り組むことができる。硬貨は5、10、100などのまとまりになっていて、数の数え方や数の合成の感覚をつかむにはとても有効な教材である。お金の出し方がいくつもあるので、考える力を育てることができる。「他にも考え方があるかも」「もっと考えてみよう」という意欲や追究する心が生まれてくると考える。

そこで本単元では、お金の模型を使い、28円等、何通りもお金の出し方ができる問題に取り組ませる。硬貨の出し方をタブレット端末で撮影しておき、自分が最もよいと思ったお金の出し方のか考えさせたい。自分の考えのみにとらわれないように、1チームを4人で構成し、お互いの意見を出し合う場面を取り入れる。こうした活動を通して、様々な視点で考えるとともに、数のまとまりについて意識を高めたい。

4 単元計画 (13時間完了)

学習活動	時数
数の数え方を知る。	1
数え棒を数えて数字を書き表す。 数を書き表せるようにする。	2・3
2位数を数字に書いたり、2位数から「10がいくつと1がいくつ」と表現したりする。	4～8
身のまわりで100までの数字が使われているものを探す。	9
お金の模型をつかっていろいろな28円の出し方を考える。	10 (本時)
100をこえる数の構成を理解する。	11
100をこえる数の順序を理解する。	12
学習内容の理解を確認する。	13

5 本時の学習指導

(1) 目標

買い物の場面で、いろいろなお金の出し方や分かりやすい出し方を考えることができる。

(思考・判断・表現)

(2) 新しい時代で活躍するための協働的な学びの実現のために

iPad を用いて、チームの友達とお金の出し方や出しやすさを比較して考える。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の活動・支援
導入 (4)	1 28 円のガムを買うときにどんなお金の出し方があるか考える。	・教員が客になり、野菜やお菓子、硬貨の模型を見せることで、本時の学習意欲を高める。
課題 (1)	2 本時の学習課題を把握する。	・1 円玉のみで支払う様子を見せて、その他にもお金の出し方はないか問う。
展開 (35)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> どんなおかねの出したかがあるかかんがえよう。 </div> 3 お金の模型を使いながら、個人で 28 円のお金の出し方を考える。 ① ワークシートにお金の模型を並べる。 ② 並べたら、タブレット端末でワークシートを撮影する。 4 28 円のお金の出し方について、自分が数えやすい、出しやすい出し方を考え、理由も含めて発表する。 ・10 円玉が 2 枚と、1 円玉が 8 枚だと自分が数えやすいよ。 ・10 円玉と 5 円玉と 1 円玉を使うと枚数が少なく確認しやすいよ。 ・枚数が多いと店員さんが数えるのが大変だよ。 5 36 円のアメを買うために、出しやすいと思うお金の出し方を、個人で考える。	・お金の置き方、並べ方を統一できるように黒板に提示する。 ・お金の模型を並べたらタブレット端末で撮影し、いろいろな出し方を振り返ることができるようにする。 ・おつりの出ないちょうど 28 円で考えるように指示する。 ・タブレット端末で撮影したものを見せ合いながら意見を出し合うよう指示する。 ・児童の考えたお金の出し方を板書する。 ・児童を指名し、教材提示機で手元を映してどの出し方が出しやすいのかみんなが実感できるようにする。 ・全体発表で出た理由をキーワードにまとめて板書する。 ・出し方に困った場合は、チームの人に聞くように指示する。 ・お金の出しやすさや確認のしやすさについて考えている児童を称賛する。
整理 (5)	6 振り返りを発表する。 ・いろいろなお金の出し方があることが分かりました。 ・自分やお店の人が分かりやすい出し方があることが分かりました。	・なかなか振り返りが書けない児童のために、振り返りを◎、○、△でもできるようにしておく。

(4) 評価

いろいろな種類のお金の出し方を考えて、お金の数や種類に注目して出しやすさや確認のしやすさを考えることができたか。(活動 3、4 の様子から)